

各県の麦の生産状況について（大麦）

	1. 各県における大麦の需要・課題	2. 今後の生産振興に係る取組・課題	参考：県の生産目標・推進品種	参考：これまでの技術指導等	3. 1及び2の課題解決に向けた取組・推進方針	参考：今後行う技術指導、試験研究機関で開発中の技術・品種	参考：県単独予算事業	4. 他県及び実需者に対し意見交換で聞きたい・話したいこと
新潟県	①大麦の用途：麦ごはん、大麦粉、醸造用（ウイスキー）等 ②大麦の主な取引先：阿部精麦株式会社 様 ③実需者から求められる品質・量のニーズ：品質：異種穀粒とのコンタミ防止 出荷量：安定生産による出荷量の維持	①収量・品質の確保 ②需要量に応じた生産拡大	①作付面積 現状： 令和 4 年 128ha ⇒ 目標： 令和 6 年 200ha ②生産量 現状： 令和 4 年 366t ③推進品種 本県での栽培適性がある「ミノリムギ」を中心としつつ、実需者からの需要のある品種を推進	①施肥管理：生育状況に応じた追肥施用 ②排水対策：団地化推進による地域排水の徹底、暗渠未施工等排水不良圃場への作付け回避、ほ場内排水の徹底 ③赤かび病の発生：適期防除、事前ほ場巡回、荷受け時のチェック ④品質向上：適期収穫推進、粒選の徹底による細麦粒の混入防止	①重点技術対策の徹底による収量・品質の確保 【新潟県のR4年産大麦の重点技術対策】 ・高品質安定生産のための栽培環境の整備 ・排水対策の強化及び適期播種による越冬前生育量の確保 ・越冬後の適正な肥培管理と雑草対策 ・赤かび病等の防除徹底 ・適期収穫及び乾燥・調整による被害粒の発生防止・除去 ②生産拡大や生産性向上に必要な機械・施設の導入支援	①畝立て播種等の排水技術の徹底 ②本県において栽培適性のある品種の調査	新潟県農林水産業総合振興事業（大豆・麦・そば生産振興メニュー） 予算：127,858 千円の内数 内容：大豆・そば・麦の生産のために必要な施設・リース用機械の整備 ①施設整備（補助） ・一般地域：3,000～50,000 千円（4.5/10 以内（うち機械3/10 以内）） ・中山間地域：1,000～50,000 千円（5/10 以内（うち機械1/3 以内）） ②機械整備（リース） ・一般地域：1,000～30,000 千円（3/10 以内） ・中山間地域：1,000～30,000 千円（1/3 以内）	
富山県	①用途 ・主食用（押し麦等） ②主な取引先 ・株式会社はくばく ・豊橋糧食工業株式会社 ・協和精麦株式会社 ・永倉精麦株式会社 ・全国精麦工業協同組合連合会 ・全国麦茶工業協同組合 等 ③実需から求められる品質・量のニーズ ・硝子質粒の低減 ・異物混入の防止 等 ④需要にかかる課題 ・更なる需要の拡大	○取組 ・県米作改良対策本部からの管理情報や指導文書の発出、各農林振興センターにて地域に応じた栽培管理指導 ・生産推進に向けた生産体制のための国事業活用の推進・支援 ○課題 ・収量・品質の高位安定化のための基本技術の徹底 ・硝子質粒の低減 ・異物混入の防止	①作付面積 現状：令和5年産 3,567ha 目標： 3,400ha程度 ②推進品種 ・ファイバースノウ	①排水対策：額縁排水溝等の設置や適宜排水溝の手直しの実施など ②施肥管理および硝子質粒の低減対策：地力に応じた基肥施用、生育量に応じた追肥 ③適正な苗立本数の確保：砕土率の確保、時期・方法に応じた適正な播種量の遵守など ④雑草防除：初期除草剤の活用、カラスノエンドウなどの雑草の抜取りの徹底など ⑤赤かび病等の防除：適正な時期の確実な2回防除の徹底、ほ場巡回の実施など ⑥収穫・乾燥調製：収穫前の雑草の抜取りや選別作業の徹底	○推進方針 ・実需のニーズに応じた生産の推進 ○取組 ・引き続き、県米作改良対策本部から発出する管理情報や指導文書等を通して基本技術の徹底等を推進 ・県産麦民間流通連絡協議会等による実需のニーズを把握に努める。	3の取組内容と同じ	大麦生産特別促進事業等 予算：287千円 （補助事業ではないが、県予算により実証ほの設置などを行っている。）	-
石川県	①大麦の用途 ・麦茶用 ・精麦用 ②大麦の主な取引先 ・（株）はくばく、全国麦茶工業協同組合 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・国産購入希望が生産量を上回っており、実需者から増産を希望されている。 ④需要にかかる課題 ・中長期的な需要の掘り起こし（近年のミスマッチ状況により、生産者・関係機関の間に大麦の増産（需要の確保）について不安がある）	・排水対策の徹底等の基本技術の実施による収量、品質の向上 ・面積拡大に当たり、拡大規模によっては、新規生産者の掘り起こしや共同乾燥施設の運用改善が必要	①作付面積 現状： 令和 4 年 1,610 ha ⇒ 目標： 令和 7 年 1,600 ha ②生産量 現状： 令和 4 年 6,130 t ⇒ 目標： 令和 7 年 6,400t ③推進品種 ファイバースノウ	・排水対策の徹底 ・土壌分析に基づく酸度矯正 ・生育に応じた施肥管理 ・計画的な防除 ・適正な播種時期による越冬前生育量の確保	・令和3年度から、地区毎に関係機関で課題等を検討する体制を整備 ・栽培講習会、現地講習会等を通じ、排水対策の徹底等の基本技術を指導 ・能登地域では、圃場整備実施地区に対して、麦の導入を推進 ・麦流通会議の開催を前倒しし、需要の早期把握に努める ・必要に応じ、新規生産者の掘り起こし、共同乾燥施設の運用をJA等と検討。	・東北皮50号について奨励品種決定現地調査を実施中		
福井県	①大麦の用途（麦茶、ビール、醸造用など） ・主に主食用 ②大麦の主な取引先 ・（株）はくばく等精麦会社 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・実需に応じた生産量、異物混入防止の徹底 ④需要にかかる課題 ・県内の保管倉庫の不足	①生産振興に向けて県で推進している取組や特徴的な産地の取組（重要推進事項）※推進方針より抜粋 ・早生品種跡地等の播種条件の良い圃場での作付け ・水稻収穫後、直ちに排水対策を実施 ・土壌改良資材の適正な施用 ・播種適期の厳守 ・過剰分けつによる細麦防除 ・赤かび病防除の徹底 ・生産工程管理記帳、GAPの確実な取組み ②生産振興に関する技術的な課題 ・うるち麦（ファイバースノウ）ともち麦（はねうまもち）の生産地区の設定（交雑防止のため）	①作付面積 現状：令和4年産 4,800ha 令和5年産 4,938ha ⇒目標：令和6年産 4,911ha ②生産量 現状：令和4年産 15,842t 令和5年産 12,300t ⇒目標：令和6年産 13,100t ①、②はJA福井県経済連取扱い分 ③推進品種 うるち麦（ファイバースノウ） もち麦（はねうまもち）	①施肥管理 ⇒過剰分けつによる細麦防止 【越冬時の3月上旬の茎数が600本/㎡を超える場合は茎立期後追肥を施用（時期：3月末～4月初旬 施用量 N:2kg/10a）】 ②排水対策 ⇒作付け前の暗きょ排水の整備・洗浄・機能診断 ・額縁排水、圃場内排水路を溝堀機（トレンチャー等）により施工 ・サブソイラによる補助暗渠の施工 ③硝子質粒の発生 ⇒適正な追肥指導 ④赤かび病の発生 ⇒赤かび病のリスクが高いと判断された場合の圃場巡回の徹底	水田農業レベルアップ委員会（JA/県）で毎年、推進方針を議論・決定	実需に応じた高品質なもち麦増産	特になし	・転作物の一つとして大麦は重要な品目であるが、販売サイドからは、県内に保管場所がないということで、現状の面積の維持を要請されている。 ・県として、保管や流通を支援している事例はないか。もしくは、そのような計画はあるか

各県の麦の生産状況について（小麦）

	1. 各県における小麦の需要・課題	2. 今後の生産振興に係る取組・課題	参考：県の生産目標・推進品種	参考：これまでの技術指導等	3. 1及び2の課題解決に向けた取組・推進方針	参考：今後行う技術指導、試験研究機関で開発中の技術・品種	参考：県単独予算事業	4. 他県及び実需者に対し意見交換で聞きたい・話したいこと
新潟県	①小麦の用途：パン、乾麺 等 ②小麦の主な取引先：丸榮製粉株式会社 様 ③実需者から求められる品質・量のニーズ：品質：タンパク質含有率の基準値内での安定 出荷量：需要に応じた生産拡大	①収量・品質の確保 ②需要量に応じた生産拡大 ※特徴的な取り組み 「新潟小麦の会」、「新潟あんぱん小麦の会」が結成され、実需者と生産者が連携した小麦 生産が拡大している。	①作付面積 現状： 令和4年 118ha ⇒ 目標： 令和6年 200ha ②生産量 現状： 令和4年 349t ③推進品種 実需者からの需要のある品種「ゆきちから」等を推進	①施肥管理：生育状況に応じた追肥施用 ②排水対策：団地化推進による地域排水の徹底、暗渠未施工等排水不良圃場への作付け回避、ほ場内排水の徹底 ③赤かび病の発生：適期防除、事前ほ場巡回、荷受け時のチェック ④品質向上：適期収穫推進、粒選の徹底による細麦粒の混入防止	①重点技術対策の徹底による収量・品質の確保 【新潟県のR4年産小麦の重点技術対策】 ・高品質安定生産のための栽培環境の整備 ・排水対策の強化及び適期播種による越冬前生育量の確保 ・越冬後の適正な肥培管理と雑草対策 ・赤かび病等の防除徹底 ・適期収穫及び乾燥・調整による被害粒の発生防止・除去 ②生産拡大や生産性向上に必要な機械・施設の導入支援	①畝立て播種等の排水技術の徹底 ②本県において栽培適性のある品種の調査	新潟県農林水産業総合振興事業（大豆・麦・そば生産振興メニュー） 予算：127,858 千円の内数 内容：大豆・そば・麦の生産のために必要な施設・リース用機械の整備 ①施設整備（補助） ・一般地域：3,000～50,000 千円（4.5/10 以内（うち機械3/10 以内）） ・中山間地域：1,000～50,000 千円（5/10 以内（うち機械1/3 以内）） ②機械整備（リース） ・一般地域：1,000～30,000 千円（3/10 以内） ・中山間地域：1,000～30,000 千円（1/3 以内）	
富山県	①用途 パン用、日本麺用 ②主な取引先 沼田製粉 等 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・タンパク含有率の安定 ・供給量の安定 等 ④実需にかかる課題 ・実需のニーズに合わせた生産	○取組 ・試験研究機関にて本県に適した品種の選定 ○課題 ・登熟期間が梅雨時期と重なるため、刈遅れ等が懸念される。	生産に関する数値目標は定めていない。	・生産者がごく少数のため、限定的な指導にとどまっている。	○推進方針 ・地域特産物の原材料など地域の実需者との連携を中心とした生産を推進 ○取組 ・引き続き、現在栽培している地域におけるJA等と連携した栽培指導の実施 ・本県での栽培に適した品種を選定するための情報収集、適性確認の実施	3の取組の内容と同じ	-	-
石川県	①小麦の用途（パン、麺、菓子用など） ・パン、麺、醤油 ②小麦の主な取引先 ・金沢製粉（株） ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・実需者より学校給食で使う量の生産を希望している ④需要にかかる課題 ・中長期的な需要の掘り起こし	【取組】 ・排水対策の徹底等の基本技術の実施による収量、品質の向上 【当面の課題】 ・面積拡大に当たり、拡大規模によっては、共同乾燥施設の運用改善が必要 ・栽培可能地域の見極め 【中長期的な課題】 ・種子確保の手段	①作付面積 現状： 令和4年 94 ha ⇒ 目標： 令和7年 250 ha ②生産量 現状： 令和4年 210 t ⇒ 目標： 令和7年 1,000t ③推進品種 ゆきちから	・排水対策 ・計画的な病害防除 ・生育に応じた施肥管理	・令和3年度から、地区毎に関係機関で課題等を検討する体制を整備 ・栽培講習会、現地講習会等を通じ、排水]対策の徹底等の基本技術を指導 ・能登地域では、圃場整備実施地区に対して、麦の導入を推進 ・麦流通会議の開催を前倒しし需要の早期把握に努める ・必要に応じ、新規生産者の掘り起こし、共同乾燥施設の運用をJA等と検討。 ・一部の地区でのみ生産しているため、他地区との課題の共有	・小麦実証ほの設置 （排水、ようりん施肥、大豆立毛間播種） ・本県に適した品種の選定		
福井県	①小麦の用途（パン、麺、菓子用など） ・パン・麺（中華麺、日本麺）等 ②小麦の主な取引先 ・金沢製粉（株）等 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・実需に応じた生産量、適正なタンパクの確保等 ④需要にかかる課題 ・需要の拡大が必要	①生産振興に向けて県で推進している取組や特徴的な産地の取組 （重要推進事項）※推進方針より抜粋 ・早生品種跡地等の播種条件の良い圃場での作付け ・水稻収穫後、直ちに排水対策を実施 ・土壌改良資材の適正な施用 ・播種適期の厳守 ・過剰分けつによる細麦防止 ・赤かび病防除の徹底 ・生産工程管理記帳、GAPの確実な取組み ②生産振興に関する技術的な課題 ・現状主力品種（福井県大3号）の低収	①作付面積 現状：令和4年産 118ha 令和5年産 127ha ⇒目標：令和6年産 101ha ②生産量 現状：令和4年産 261t 令和5年産 150t ⇒目標：令和6年産 180t ①、②はJA福井県経済連取扱い分 ③推進品種 福井県大3号 （パン・中華麺用品種）	①適正タンパク管理 ⇒適正時期・量の実肥の実施 ②排水対策 ⇒作付け前の暗きょ排水の整備・洗浄・機能診断 ・額縁排水、圃場内排水路を溝堀機（トレンチャー等）により施工 ・サブソイラによる補助暗渠の施工 ③赤かび病の発生 ⇒赤かび病のリスクが高いと判断された場合の圃場巡回の徹底	水田農業レベルアップ委員会（JA/県）で毎年、推進方針を議論・決定	福井県大3号以外のパン・中華麺用品種の模索（農業試験場内試験）	特になし	小麦の品種比較試験の実施状況（県農試等で実施していれば）